

職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

●理学療法士



中国四国グループ関連病院・施設の紹介

鳥取県

鳥取医療センター
米子医療センター

島根県

松江医療センター
浜田医療センター

岡山県

岡山医療センター
南岡山医療センター
長島愛生園
邑久光明園

広島県

呉医療センター
福山医療センター
広島西医療センター
東広島医療センター
賀茂精神医療センター

山口県

関門医療センター
山口宇部医療センター
岩国医療センター
柳井医療センター

徳島県

とくしま医療センター東病院
とくしま医療センター西病院

香川県

高松医療センター
四国こどもとおとなの医療センター
大島青松園

愛媛県

四国がんセンター
愛媛医療センター

高知県

高知病院



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士23名

言語聴覚士9名

当院の特徴

『脳』と『こころ』の病院です。

当院は鳥取県東部を診療圏域とする中国四国グループの「精神疾患」に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に関する専門的な医療等の機能を備えた医療施設です。特に地域医療として回復期リハビリテーションと認知症の診療を行っており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに対し専門的なリハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ

当院リハビリテーション科では、働きがいのある職場づくりを目指すとともに、療法士としての社会性や専門性を身につけていけるよう、職員一同日々研鑽を積んでいます。また、組織の中においても自己の役割と責任を持って、患者さんファーストの精神で臨床業務に取り組んでいます。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
 電話番号（代表）：0857-59-1111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tottori.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では一般急性期や回復期に加え、神経難病、重症心身障害児(者)、認知症等の患者さんに対しリハビリテーションを実施しています。また、パーキンソン病センターの開設に伴い、入院患者さんに対する短期集中リハビリテーションによる専門的介入を行っています。

回復期病棟や短期集中リハビリテーションに関わる対象患者さんに対して、シームレスなリハビリテーションを提供できるよう休日出勤体制をとっており、患者さんの早期回復と病状の進行抑制を図っています。

リハビリテーション支援ロボットを導入しており、先進的な医療技術を用いたリハビリテーションを推進しています。



教育体制

新採用者に対する当科の新人教育プログラムに沿って段階的な教育を行い、主体的な考えを持って行動、問題解決が図れる療法士を育てています。

患者さんをしっかりサポートできる療法士となれるよう、LSVT®BIGや3学会合同呼吸療法認定士など、種々の資格取得に向けたサポートを行っています。

保有資格

3学会合同呼吸療法認定士	6名	LSVT®BIG	2名
パーキンソン病療養指導士	2名	心臓リハビリテーション指導士	1名
臨床実習指導者講習会修了	8名	福祉住環境コーディネーター2級	2名

学術活動

令和5年度学会等発表 2件

鳥取県東部地域の公民館で出前講座を開き、地域への啓発活動を行っています。

他部門との連携

多職種とともに明確な目標を持って患者さんの治療とリハビリテーションを進めていけるよう、定期的なカンファレンスやスキルアップのための多職種勉強会を開いています。

在宅復帰に向けた患者さんに対しては、多職種によるカンファレンスや退院前家屋調査による在宅評価を行い、安心して自宅退院ができるよう多職種連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では回復期リハビリテーションをはじめ、パーキンソン病短期集中リハビリテーションや神経難病患者、重症心身障害児(者)患者、認知症患者さんに対するリハビリテーションを実施しています。また、多職種との連携を図り、福祉用具の作成や自主練習の指導など患者さんの退院後の生活を見据えたサポート体制が充実しています。部門内やチーム内での勉強会も行っており、自身のスキルアップを目指せる職場環境です。是非、国立病院機構中四国グループで一緒に働きましょう。(入職2年目)





対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

当院の特徴

整形外科（上下肢・手指の骨折、人工関節、靭帯損傷等）呼吸器・循環器の内部疾患、がん（周術期含む）、緩和ケア病棟患者も含め、様々な疾患を対象としています。術後離床が必要な患者に対する早期介入を行っており、土・祝日、長期休暇時もありハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ



1人1人がスタッフ同士で相談・協力しあってリハビリ部門を盛り上げていけるよう、声掛けしあえる雰囲気づくりを目指しています。個々の能力を高めていくことも必要ですが、組織としてスタッフを支え合うシステム作りを考えています。各スタッフとコミュニケーションをとって働きやすい職場になるよう心掛けています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒683-0006 鳥取県米子市車尾4-17-1
 電話番号（代表）：0859-33-7111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yonago-mc.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

鳥取県の西側に位置する当院は、地域に根差した病院づくりを目指して、日々患者さんの診療に取り組んでいます。リハビリテーションの対象疾患は、整形疾患をはじめ、呼吸器疾患、がんの後療法が多数を占めます。それぞれに、在宅復帰や転院・施設入所等を意識して、できる限り早期から介入し、ADL向上に寄与出来るよう取り組んでいます。リハビリテーションを提供する上で患者さんの事を一番に考えています。また、スタッフ個人の小さな悩みも解決できるよう、職員同士連携し、知恵を出し合い、切磋琢磨できる環境です。
一人はみんなのために、みんなは一人のために。



リハビリ室

教育体制

1年目スタッフには、新人教育プログラムに従い、教育担当者が丁寧に指導を行っています。2年目以降も、個々の成長度合いに応じて声掛けや業務量の調整を行い、働きやすい職場を目指しています。定期的に勉強会や症例検討会を行ったり、他部門の勉強会に参加し、知識を深めることができます。また、様々な認定資格を有するスタッフが多数在籍していますので、スキルアップ相談もとてもしやすい環境です。

学術活動

令和5年度の学術活動 学会発表：4件 論文発表等：4題

-保有資格-

認定理学療法士 2名（運動器、呼吸器） 修士2名（保健学、健康科学）

腎臓リハビリテーション指導士 1名 3学会合同呼吸療法認定士 4名

がんリハビリテーション研修修了者 8名 臨床実習指導者講習会修了者 5名

日本糖尿病療養指導士 1名

他部門との連携

整形外科をはじめ様々な病棟カンファレンスに定期的に参加しており、多職種と密に情報共有や活発なコミュニケーションをとり、診療の質の向上に努めています。また、委員会活動にも積極的に取り組み、さらなる安心・安全な医療の提供や職員の働きやすさ、業務の効率化を目指しています。

先輩からのメッセージ

私は米子医療センターで働き始めて3年目になりました。米子医療センターは急性期病院で、様々な疾患の患者さんのリハビリテーションを経験でき、とても勉強になります。また、PT・OT関係なく、先輩方が丁寧に熱い指導をしてくださいます。

学びがいがあり、自分のスキルアップになります。

とても明るい雰囲気スタッフ同士のコミュニケーションが円滑に行われているため、働きやすい環境です。メリハリつけて働く先輩方のかっこいい背中をみて、これからも頑張ろうという気持ちが沸々と湧いてきます！



松江医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

島根県東部を診療圏として、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3領域を専門とした医療機関です。特に呼吸器疾患は地域における「呼吸器病センター」としての自負を持ち診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



「ともに考え、ともに成長する」ことを目標とし、組織人としての資質を高め、地域に求められる医療を提供し、患者確保にも努めています。またワークライフバランスも重視し、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指します。松江医療センターはチームワークが良く、困ったときには皆で助け合うことができる誇らしい職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒690-8556 島根県松江市上乃木5-8-31

電話番号（代表）：0852-21-6131

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://matsue.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では神経難病（パーキンソン病・ALSや筋ジストロフィー）・呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎・肺がんなど）・重症心身障害児者（発達促進を含む）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。ロボットスーツHAL®医療用下肢タイプを用いた治療も行っています。

3学会合同呼吸療法認定士やパーキンソン病の運動療法を専門的に行うLSVT®BIG取得者が複数名在籍し、また取得に必要なサポートも充実しています。急性期から慢性期まで幅広く介入していることも当院理学療法部門の特徴となります。



出典：株式会社フィリップス・ジャパン

教育体制

新人に対しては当科新人教育プログラムに沿ってプリセプターを中心とした指導を行っています。科内の勉強会や院内の研修会など多数予定があります。

学術活動

令和5年度実績：学会発表6件

（HAL®腰タイプ自立支援型を用いて歩行能力の改善をみた1症例など）

講義・講演等：11件

専門学校や各団体・研究会などからの講師依頼においてスタッフの派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

また在宅に関わる職種の方と退院前カンファレンスや退院前訪問などを行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では呼吸器疾患、神経難病の患者さんを中心にリハビリテーションを行っています。慢性期の呼吸管理や新しい運動療法の導入など、入職後の早期から貴重な経験と知識を得ることができます。職場の雰囲気も良く、分からないことがあれば丁寧に指導していただき、日々勉強ができる環境です。（入職6年目）





浜田医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士17名

作業療法士13名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は、県西部唯一の3次救急医療から在宅復帰まで、幅広くカバーする地域の中核病院です。理学療法は、急性期・回復期・地域包括・緩和ケアに大きく分かれており、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者等の幅広い疾患を対象にリハビリテーションを行っています。

職場責任者からのメッセージ



浜田医療センターリハビリテーション科は「健全な経営体系」「多職種協働」「危機管理体制」「多様性ある人材育成」をキーワードに目標を掲げ、36人が力を合わせて業務に取り組んでいます。

「医療を通じて“地域で生きる”を支援する」という病院理念のもと、リハビリでも急性期・回復期・地域包括・緩和ケアなど幅広い病期や領域に対応しているのが特徴です。こういった特徴をもつ病院は珍しく、スタッフも多彩なスキルを習得する必要がありますが、それだけに良い経験ができる職場だと考えております。

誰もが学べて成長でき、ワークライフバランスも充実した職場を目指していきます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777-12
 電話番号（リハビリテーション室）：0855-28-7098
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://hamada.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

脳血管疾患や運動器疾患を中心に、心大血管疾患や呼吸器疾患、がんなど幅広い疾患の患者さんを急性期から在宅復帰支援まで介入しています。

急性期では早期の移動能力の獲得を目標に評価を行い、各スタッフが連携して日々の治療を行っています。救命センターでも医師や看護師など多職種と共同して早期離床を図っています。

回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟では在宅生活を考慮したアプローチを行い、退院時カンファレンスや共同指導、必要に応じて退院前訪問指導を多職種と連携をとりながら行っています。

終末期における緩和リハビリテーションでは患者さんのQOL維持向上に重点をおきながら介入しています。



教育体制

新人教育はリハビリテーション科全体で力を入れて取り組んでおり、プリセプター制度を取り入れ、科内新人研修や新人症例報告会を実施しています。その他では、院内での勉強会にも参加の機会があります。また、院外で行われる勉強会にも参加しやすい環境で各自自己研鑽に励んでいます。

学術活動

学会発表：3件（令和5年度国立病院総合医学会）
呼吸認定理学療法士2名　がんのリハビリテーション研修修了9名　ICLS講習会修了2名　3学会合同呼吸療法認定士7名　心不全療養指導士1名　パーキンソン病療養指導士1名　LSVT® BIG認定セラピスト2名　他

他部門との連携

定期的に行っているリハビリテーションカンファレンスにて病状や問題点、今後の方針を主治医や看護師、ソーシャルワーカー等の多職種間で共有するとともに、患者さんの最善のゴールを検討しながら実施しています。必要な患者さんには退院前訪問指導を行っており、実際に自宅に伺い患者さんの動作能力に合わせた環境調整や家族指導を行っています。また、施設職員さんや家族さんによるリハビリテーション見学を行っており、退院先を見据えた多職種連携も積極的に行っています。

先輩からのメッセージ

理学療法士入職6年目です。当院は三次救急医療施設でありながら、地域包括ケア病棟や回復期病棟が併設されており、様々な病態の患者さんと関わる機会があります。日々の業務は大変なことも多いですが、多くの経験ができるので大変やりがいのある職場だと思います。また、浜田は海が近いのでBBQや海水浴、一年を通してサーフィンもできるので、仕事以外でも楽しめることが多いです。





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

運動器

循環器

脳血管

新生児

呼吸器

がん

神経難病

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士22名

作業療法士8名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は平均在院日数が約10.5日の急性期病院です。対象となる疾患は、整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がん等多岐にわたります。早期介入と早期の機能回復をスローガンとし、介入は入院直後または術後当日の早い段階から行われます。心臓リハビリテーションでは心肺運動負荷試験に基づいた運動指導や日常生活指導などを含む、包括的かつ集学的なリハビリを行っています。呼吸ケアサポートチームや緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどにも参加し、多職種と協同した活動も行っていきます。

職場責任者からのメッセージ

当院は急性期医療に特化しており、上記のように平均在院日数の短縮化を目指しているため、リハビリテーション科には早期介入と介入効果の向上が常に求められます。

そのような患者さんや病院からのニーズに応えるためにも、当科では職員研修の充実を図っています。新人・中堅職員・役職者など世代別対象の研修やプレゼンテーション指導に注力し、在籍している職員がインセンティブを感じられる職場作りに努めています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-1192 岡山県岡山市北区田益1711-1

電話番号（代表）：086-294-9911

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://okayama.hosp.go.jp/>

504-info@mail.hosp.go.jp



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では運動器・脳血管疾患・呼吸器・心疾患・がんリハビリテーション等、すべての疾患別リハビリテーションを実施しています。

急性期病院として、発症・手術直後の患者さんのリハビリテーションを行うため、リスク管理の下、安全な早期離床・早期リハ介入を心がけています。

リハビリテーション科内で作業療法士・言語聴覚士も含めて領域別チームを編成しています。専門知識の習得や治療技術の向上を図るための勉強会を開催したり、業務の相談がしやすい体制作りを行っています。

「よく働き、よく遊べ」をスローガンに日々の業務に励んでいます。



教育体制

新人教育にOSCE、KYTを導入し、客観的な評価に加え問題点の共有に努めるようにしています。体系的な教育体制は、当科規定の新人教育プログラムに基づき新採用者に対して指導係とアドバイザーを配置して指導や助言を行い、自律した業務遂行の支援を行っています。

また、スタッフ個々の臨床能力やディスカッション能力を高める研修も行っています。勉強会は科内研修および対外的な研修会の開催など、院内だけでなく地域への発信を目指した専門分野の研修を行っています。

学術活動

学会等発表：令和5年度 7件

その他：症例検討会（1回/週） 機構本部・グループ研修講師、院内勉強会講師等

他部門との連携

RST・褥瘡・排尿ケア・転倒転落予防の各チーム医療に携わり、多職種連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では、多種多様な疾患のリハビリテーションに携わることができ、幅広い分野に関する知識や経験を積むことができます。入社当初は急性期特有のリスク管理や病態把握に苦心しました。先輩から助言を頂いたり、科内勉強会に参加し、日々のスキルアップに励んでいます。

ぜひ国立病院機構中国四国グループで私たちと一緒に、よりよい理学療法について考えていきませんか？





南岡山医療センター

対象病期

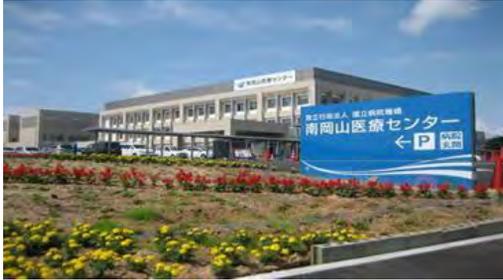
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名

作業療法士9名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は、急性期病棟、神経・筋疾患病棟、呼吸器感染症病棟、重症心身障害児者病棟を有しています。リハビリテーションにおいても入院・外来患者さんの急性期・維持期に介入しています。職員は、子育て世代、介護世代等と各年代層の背景に対応できるようワークライフバランスを支援しつつ、職員の目指すキャリアアップも支援しています。

職場責任者からのメッセージ



みなみ君

職場は新卒1年目から、30年前後までの経験年数を有するスタッフで構成されています。臨床業務について常に先輩からの指導や助言が得られる体制です。職員間のコミュニケーションも経験年数に関わらず連携がとれるようにしています。また、ハラスメント防止についても積極的に職員への啓発を行うとともに、メンタルサポートにも気を配っています。「職員みんなが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、病院のために頑張る職場」をモットーにしています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話番号（代表）：086-482-1121

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

アクセス：https://minamiokayama.hosp.go.jp/about/index_3.html

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では循環器疾患（慢性心不全など）、整形疾患（腰椎圧迫骨折・TKA術後）、難病（パーキンソン病・ALS・筋ジストロフィー）、呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎など）、重症心身障害児者を主な対象としてリハビリテーションに取り組んでいます。

3学会合同呼吸療法認定士・心臓リハビリテーション指導士・心不全療養指導士取得者が在籍し、資格取得のサポートもしています。急性期、慢性期で必要とされるスキルを統合し活用できることも当院理学療法部門の特徴となります。



教育体制

新人職員に対してはプリセプター・メンターを配置し、当科新人教育プログラムに沿って、見学・模倣・実施の順に技術を習得できる体制となっています。当院の特徴的な診療内容や医療機器等のレクチャーを行い、スムーズに診療できる体制を整えています。1～6年目までのキャリアプランを作成し、2年目以降の職員の人材育成にも力を入れています。

学術活動

学会発表：令和5年度 1件

その他：病院主催による呼吸ケア教室・糖尿病教室の講師など

他部門との連携

診療科ごとに、定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。入院が長期となっている患者さんについても同様に、定期的にカンファレンスを行い、治療方針や日々の様子についての確認、意見交換を行っています。

先輩からのメッセージ

私は南岡山医療センターに勤務し2年目となります。当院では重症心身障害や神経難病、呼吸器疾患や運動器疾患など幅広い分野の医療に携わることができます。まだまだ経験も知識も浅く、わからないことも多々ありますが、充実した教育体制や優しく丁寧な先輩方に支えられています。

日々回復していく患者さんの姿や笑顔を見ることができ、とてもやりがいを感じながら業務を行っています。





国立療養所 長島愛生園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 4名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

当園は1930（昭和5）年に、日本で初めての国立療養所として誕生しました。その当時ハンセン病が感染症であることはわかっていたましたが、有効な治療がなく、国の政策として療養所への隔離が行われました。入所者の皆様は、ハンセン病という病気は治っているにもかかわらず、高齢化や後遺症、今なお残る偏見・差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています。

職場責任者からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全職員が一丸となり、日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史に深く感慨がわくものと思います。またワークライフバランスも重視しており、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。チームワークではどこよりも優ると自負している当園の理学作業療法室に、ぜひ一度お越し下さい。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

電話番号（代表）：0869-25-0321

理学作業療法室：泰地（たいち） 内線：828

<https://www.hosp.go.jp/~aiseien>

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

従来のハンセン病後遺症の理学療法は、変形や拘縮の予防、二次的外傷や合併症に対する運動療法および物理療法が主体でした。

しかし近年では入所者様の高齢化によるADLやQOLの低下、合併症の併発、さらには社会的背景も考慮した治療プログラムの立案が必要となっています。そのため他部門と連携し、情報を共有することで、入所者個々に応じた理学療法を提供しています。

また呼吸療法認定士や糖尿病療養指導士も複数名在籍しています。



教育体制

園内での勉強会や研修会の参加はもちろんのこと、研修会の講師や部署内外での症例検討会やカンファレンスで自身の表現力を身に付ける機会があります。また、岡山市内や兵庫県での研修会も参加が可能な環境です。

学術活動

園内での入所者の皆様への認知予防講座、リハビリテーション科主催の研修会、職員への講義および運動指導、附属看護学校への講義も行っています。

他部門との連携

毎月定期的に、医師、看護師、介護員、MSWを含む他職種とのカンファレンスを実施しています。入所者様の外出や外泊、退院の際には身体機能やADL能力の評価が重要視され、その根幹を担うポストとして参加しています。退院前訪問を通じて在宅での生活を想定した理学療法も提供しています。

先輩からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全療法士が日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、ハンセン病の歴史に深く感慨がわくものと思います。

また平成30年6月には5階建ての総合診療棟が新設となり、我々、理学作業療法室も1階に在室しています。治療機器を含めた設備も十分な環境のもと、共に臨床に励みましょう。





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

総合診療棟外観



邑久光明園全景



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士3名

作業療法士2名

言語聴覚士1名

当院の特徴

国立療養所邑久光明園は、全国に13ある国立ハンセン病療養所のうちの一つで、岡山市の東南3.5Kmの瀬戸内海に浮かぶ長島にあります。瀬戸内海の温暖な気候と四季折々の美しい自然に満ちあふれた環境は、療養に最適の地とされております。

ハンセン病はらい菌によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は神経組織との親和性が高く、末梢神経がおかされることによって生ずる神経障害がもっとも重要な症状です。現在では、抗生剤を中心とする治療法が確立されており、完治する疾病です。

しかし、現在当園におられる入所者様の多くは有効な治療法がない時代に発症したため、重複した障害を後遺症として残してしまいました。また、入所者様の平均年齢は約88歳と高齢化しています。そのため、リハビリテーション及び介護予防が重要となっています。

職場責任者からのメッセージ

邑久光明園の職員は入所者の皆様の日一日を大切に、今後の人生を実りあるものにできるよう仕事に従事しています。

また、職場はワークライフバランスの取り組みを推進しており、働きやすい職場環境を整えています。業務は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が連携し、入所者の皆様がよりよい生活ができる様に努めています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明
6253
電話番号（代表）：0869-25-0011
リハビリテーション室まで
<https://www.mhlw.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では入所者の皆様に対し、現在の能力を維持する事を目的とした機能訓練及び高齢化に伴う疾患に対しての機能回復訓練を中心に行っております。人数は多くありませんが急性期の理学療法も行っております。

入所者の皆様は高齢化により生活動作で困難になることが増えてきているため、他職種とも連携して少しでも生活し易いようにチームで活動しています。

理学療法スタッフ間の連携はしっかりできており、担当者が急な休みでも代替りのスタッフが十分な理学療法を行える環境が整っています。

また、夏祭りやカラオケ大会などを通してふれあいを大切にしております。



教育体制

ミーティングを毎日行い情報共有をしています。転勤者に対してもリハビリテーション室全体でサポートできるような体制を整えています。岡山市内の勉強会や学会へ参加しやすい環境であると同時に、園内の研修会も医療安全、感染対策、BLSなど充実した内容です。3学会合同呼吸療法認定を有するスタッフも多く、取得をサポートする体制があります。

学術活動

学会発表：令和5年度 1件（医療安全マニュアルに準じた緊急時対応シミュレーション）

他部門との連携

病棟入院から退院までの間に多職種でカンファレンスを行い、居室にて訓練・環境整備を行っています。また、退院後も身体能力の変化に合わせて情報発信し、他職種と連携して生活の質や安全性の向上に取り組んでいます。

先輩からのメッセージ

私は、急性期の病院より転勤し、光明園在職10年目になりました。転勤当初は不安もありましたが、入所者の皆様がとても優しく迎え入れて下さり、すぐなじむことができました。

労働環境もよく、日々の業務はもちろん、子育て等も充実して行うことができます。





対象病期	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
------	-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士20名

作業療法士13名

言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は37診療科、病床数700床を有する国立病院機構の中の大規模病院のひとつであり、「地域がん診療連携拠点病院」、「3次救命救急センター」、「地域周産期母子センター」、「災害拠点病院」、「地域医療支援病院」などの機能を有する中核的な高度急性医療機関です。

職場責任者からのメッセージ

呉医療センターリハビリテーション科では相互尊重コミュニケーションを実践し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。約40名のスタッフ各々が役割を担い、科内で活躍できる場が準備されています。また、抄読会や症例報告、勉強会などを積極的に実施し、個々の臨床力およびリハビリテーション科の組織力向上に努めています。資格や認定の取得、学術活動の推進も行っています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒737-0023
 広島県呉市青山町3丁目1
 電話番号（代表）：0823-22-3111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kure.hosp.go.jp/>



呉駅よりの案内図

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

運動器疾患(骨折、股・膝人工関節)、脳血管疾患(脳梗塞、神経筋疾患)、呼吸器疾患(肺炎、COPD、肺切除術後)、心大血管疾患(心筋梗塞、心不全)、がん(血液腫瘍、消化器癌)などを対象に幅広く診療にあたっています。急性期リハビリを推進しており、発症・術前/術後早期より介入し、ADLの早期改善および合併症予防に取り組んでいます。また、多職種協同によるチーム医療を実践し、QOL向上、早期退院を目指しています。

必要に応じてバイオテックスを用いた筋力測定、心肺運動負荷試験や6分間歩行試験を用いた体力評価などの評価・解析を実施し、治療に活用しています。



教育体制

新人スタッフは整形、脳血管、呼吸、心疾患の各チームを半年を目安にローテーションし、教育を受けるシステムを導入しています。臨床現場での指導に加え、リスク管理や医療安全、感染対策などの勉強会や研修会を開催し、急性期リハビリが安全に実践できる理学療法士の育成に努めています。また、認定士や資格の取得、学術活動についても経験豊富なスタッフがサポートする体制を整えています。

学術活動

学会・研究会発表：令和5年度 6題

その他：関連学会の座長、院内研修会・勉強会の講師

他部門との連携

整形外科、脳神経外科、脳神経内科、呼吸器外科、呼吸器内科、心臓血管外科、循環器内科、血液内科、外科などの診療科において医師や看護師、MSWなど多職種でカンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

理学療法士4年目です。当院は急性期病院であり、幅広い分野の疾患を経験することで、全疾患に共通するリスク管理や各疾患に対するアプローチを学ぶことができます。先輩方も優しく指導してくださり楽しく働くことができます。また福利厚生が充実していることから、仕事だけでなく、プライベートも充実できていることも魅力の一つです。ぜひ一度、見学に来てみてください。





福山医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士13名

作業療法士9名

言語聴覚士2名

当院の特徴

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療をも担っています。「苦痛のない医療」を実践すべく、内視鏡や腹腔鏡を駆使した検査処置や手術に加え、緩和ケアチームをはじめとして各職種の強みを発揮してチーム医療を促進しています。また、治療方法の開発など臨床研究や治験についても積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科士長の片岡です。福山医療センターは急性期病院であるため多忙を極めることがありますが、スタッフは患者さんの診療に手を緩めることなく日々奮闘しています。また、科内で定期勉強会や学会指導などの体制も整備していることからリハ職種として充実感が得られる職場だと思います。スタッフ間のコミュニケーションも活発で職場の雰囲気はよく、目標に向かって団結している組織だと感じています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17

電話番号（代表）：084-922-0001

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

整形外科（人工関節、脊椎疾患、骨折等）、呼吸器や循環器等の内部疾患、がん、小児等の様々な疾患を対象としています。当院では整形外科や外科の患者さんに対する術前からのリハビリテーションにも力を入れており、術後合併症の予防目的に、呼吸リハビリテーション指導や運動指導等を実施しています。術後においては早期離床、早期ADL能力の向上のために手術翌日から365日体制でリハビリテーションを提供しています。



教育体制

新採用者に対しては一名ずつ指導係を配置するとともに、リハビリテーション科全体でサポートする環境下で育みながら、当科規程の新人教育プログラムに基づき支援を行っています。また電子カルテ操作などの各種業務についても、それぞれの担当者からオリエンテーションを実施し、円滑に業務に取り組めるように指導しています。業務量過多にならないように、担当疾患や担当者数を調整し、臨床に慣れるまではできるだけ患者さん一人ひとりと向き合える体制になっています。

学術活動

令和5年度

国立病院総合医学会2題

「当科整形チーム内の業務改善の取り組み～モニタリングシステムの導入～」

「心理面の支援により障害受容に変化がみられた硬膜内髄外腫瘍摘出術後の一症例」

日本運動器理学療法学会学術集会1題

「右特発性大腿骨内顆骨壊死に対するUKA後に脛骨部品下骨折を生じた症例」

他部門との連携

医師や看護師などの他職種との濃密な連携のもと、安全で効果的なリハビリテーションを提供し、早期退院に向けて取り組んでおります。また、当科ではチーム制を採用しており、より他職種との連携がとりやすい体制を築いています。

先輩からのメッセージ

当院では運動器、内部疾患等様々な分野の急性期リハビリテーションを行っています。入社当初は不安がありましたが、教育プログラムが充実しており、優しい先輩方の丁寧な指導のもと安心して業務に取り組んでいます。

アットホームな雰囲気でもとも働きやすいところが魅力的です。福山市に来て1年が経ち、充実した日々を過ごせています。ぜひ一度国立病院機構の見学に来てください！





広島西医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

急性期病床と筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を兼ね備えた“ケアミックス型”の病院です。複数の異なった領域のリハビリテーションを経験できます。発達障がいの外来も行っています。

職場責任者からのメッセージ



神経・筋疾患への対応は学校で教わらないことも多く、勉強の毎日です。急性期リハビリテーションも含め、患者さんひとりひとりとしっかり向き合い、相手のニーズに応えられるようコツコツと努力する。。。そんなスタッフが多いです。「患者さんとともに」これからも、成長しつづけるリハビリテーション科を目指しています！

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号

電話番号（代表）：0827-57-7151

リハビリテーション科 廣川（職場長）まで

<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

整形外科疾患、神経・筋疾患、重症心身障がい、がんを対象に専門性の高い理学療法を実施しています。

整形外科疾患では大腿骨頸部骨折術後等、地域連携パスを通じて患者さんの機能回復がスムーズにすすむように取り組んでいます。

神経筋疾患では、筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症等の患者さんに対して呼吸リハビリテーションの提供や車椅子作製支援を行っています。機器を用いた排痰援助も多職種と協働して積極的にすすめています。

重症心身障がいでは車椅子シーティング、ベッド上ポジショニングを、がんのリハビリテーションでは血液腫瘍等の患者さんに対してQOLを重視した介入を行っています。



教育体制

当科新人教育プログラムに基づき毎年年間スケジュールを立て計画的に取り組んでいます。神経・筋疾患の病態理解、呼吸リハビリテーション(呼吸介助、排痰手技)等をテーマに初歩から勉強会を行っています。臨床においても科内全体で情報交換して一緒に考えながら取り組んでおり、困ったことがあれば相談しやすい環境です。

学術活動

論文発表：令和5年度3件(うち英文2件)

学会発表：令和5年度8件(うち国際学会1件)

その他：難病診療分野別拠点病院(神経・筋疾患)主催研修での講演実績あり

他部門との連携

スムーズな退院支援ができるよう入院早期から医師・看護師・地域連携室を中心に多職種で定期的にカンファレンスを実施しています。また在宅にかかわる職種の方とも退院前の情報交換を適宜行い、情報共有に努めています。

先輩からのメッセージ

入職当初は初めてのことが多く緊張や不安でいっぱいでした。しかし、先輩方に優しく丁寧に指導していただいたことで、1日の流れや業務を覚えることができ、スムーズに仕事に取りかかることができました。また、科内の新人教育プログラムや勉強会を通じて学ぶことで、臨床に結び付けられる環境も整っています。

今後も学習したことを活かし、時には先輩方の助言を受けながら、患者さんに質の高いリハビリテーションを提供できるよう自己研鑽していきます。





東広島医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名

作業療法士6名

言語聴覚士2名

当院の特徴

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づいた安心・安全な医療を提供します。政策医療であるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設として位置づけられ、これらの診療機能を果たすべく専門的な医療の提供はもちろんのこと、ナショナルセンター等との連携の下に臨床研究、教育研修、情報発信を積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者さんが特に多いです。急性期ということもあり特に早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応できる診療体制を取っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0041 広島県東広島市西条町寺家513

電話番号（代表）：082-423-2176

リハビリテーション科（原田）まで

<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、主に急性期のリハビリテーションを診療しており、運動器、脳血管、呼吸器、心大血管、がんと全般的に対応しています。急性期病院の取り組みとして、早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応可能な診療体制を取っています。

整形疾患や呼吸器疾患などでは術前から介入することもあり、術後の離床を考慮した評価・訓練を実施し、円滑な段階的離床を行っています。また、脳神経外科と脳神経内科があるため神経難病も含めた脳血管疾患の対象者を多く診療しています。心疾患のリハビリテーションにおいては、心肺運動負荷試験を実施し体力評価や運動負荷の検討及び指導を実施し治療に活用しています。



教育体制

当院の新人プログラムに沿って、上半期では運動器・脳血管担当が主体となって指導しています。上記の通り、当院では全般的な分野を取り扱っていることを活かし、下半期から2年目以降に関わる分野についても情報共有をしながら段階的に担当領域を展開、また担当人数についても徐々に増やしていくように取り組んでいます。

学術活動

東広島医師会学術講演会 当院における心臓リハビリテーションの取り組み
心不全対応力向上研修会

他部門との連携

各科のカンファレンスに加えて、各病棟ともカンファレンスを実施し早期離床の促進
近隣の病院と連携パスを用いて、医師・看護師を含めて共通の用紙で情報共有
呼吸ケアサポートチーム、心不全ミーティングなどのチーム医療参加

先輩からのメッセージ

当院は地域の急性期を担う病院で、様々な疾患や分野の患者さんを受け入れています。そのため、多くの経験をすることができます。また、患者さんやスタッフとのコミュニケーションも多いので、和気あいあいとした雰囲気です。日々刺激を受けながら様々なリハビリのあり方を学べるのが魅力だと思います。

やりがいや楽しさを私たちと一緒に見つけませんか。





賀茂精神医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリセンターホール



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 2名 作業療法士 9名

当院の特徴

当院は中国四国グループ最大規模の精神科病院で東広島市黒瀬町にあります。政策医療である精神疾患と重症心身障害の治療に積極的に取り組み、精神科リハビリテーション活動（精神科作業療法・精神科デイケアなど）は1980年代に開始しました。地域の精神科医療の中核として、精神科救急対応、医療観察法病棟、災害時のDPAT派遣、精神科医療・福祉従事者の育成などの役割を果たしています。2017年から理学療法士による障害児リハビリテーションも開始し、『共に生きる』『その人らしい生活の実現』という病院理念のもと、多職種によるチーム医療を提供しています。

職場責任者からのメッセージ

メンタルヘルスに関する領域はこれからますます重要とされ発展する分野で、対人支援の基本でもあると思います。精神科ではまだ長期入院の患者さんも多く『その人らしい生活』を一緒に探していきます。もちろん職員の『その人らしい生活』も大切にしており、業務効率化・休暇取得を推進し、ワークライフバランスを保てるよう配慮しています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：739-2621 広島県東広島市黒瀬町南方92番地
 電話番号（代表）：0823-82-3000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kamo.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は中四国グループ最大規模の精神科病院で、理学療法部門では全国でも珍しい強度行動障害、重度の知的障害、いわゆる「動く重心」と言われる重症心身障害児者を対象にリハビリテーションを行っています。

強度行動障害とは、自分や人を傷つける、食べられないものを口に入れる、物を壊したり、長時間大声で叫ぶなど、周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態です。

そのような患者さんに対して身体面からだけでなく、認知・行動・感覚面からもアプローチし、廃用症候群への進行を予防し、身体機能の維持・向上を図っています。



教育体制

リハビリテーション科内では週一回のミーティングを実施しており、リハビリテーション内容の確認・相談をする機会や、定期的な勉強会を開催しています。また、未開拓な分野でもあるため、全国のネットワークを活用、他施設と連携し、院内外の研修会への参加も積極的に行っています。

学術活動

院内講師：令和5年度 「腰痛予防・トランスファー研修」
「褥瘡予防のポジショニング研修」

他部門との連携

毎朝病棟でのカンファレンスに参加しており、患者さんの一番新しい情報をもとにリハビリテーションに介入しています。

毎月1回、病棟ごとの合同カンファレンスに参加し、多職種(医師・看護師・保育士など)で患者さん・ご家族のご要望を踏まえた方針を共有し、連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院理学療法部門は2017年度に開設され、今年度で8年目となります。開設当初から定員は2名で、中国四国管内において最少人数の理学療法士の配置となっています。少ない人数であることのメリットもたくさんあり、情報共有や連携は取りやすく、問題が起こった場合も2人で協議し早急に対処することができています。週に1回のPTミーティングも行っており、お互いにフォローしあったり相談もしやすく、とても働きやすい職場です。





関門医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ

スタッフ数※

理学療法士16名

作業療法士11名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は山口県西端に位置し、下関市から県北西部を医療圏とする救急指定病院です。また、運用病床数は救命救急センター（12床）・ICU（4床）・急性期一般（267床）・地域包括ケア病棟（45床）の計328床を有し、救命医療から在宅復帰までの医療サービスを提供しています。

職場責任者からのメッセージ



当科では多職種連携によるチーム医療を推進しています。また、働きやすい職場環境の構築とともに、教育にも力を入れております。若手の職員が多いため、ジョブローテーションを行いながら、計画的な人材育成が図られるよう努めています。また、育休や介護休暇等の制度を利用しやすいよう互いにフォローし合いながら、安心して長く働ける職場を目指しております。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1-1

電話番号（代表）：083-241-1199

リハビリテーション科（職場長）安川（やすかわ）まで

<https://kanmon.hosp.go.jp/>



関門医療センター

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は山口県の西端に位置し、24時間稼働のER・急性期病棟・地域包括ケア病棟を有し、患者さまの救命医療から在宅復帰までを担っています。そのため、当科で診療する患者さまの障害像や病期は幅広く、多様な臨床経験を積むことができます。運動器疾患としては、外傷・人工関節に加えて、運動選手の靭帯・半月板損傷や、脊柱外科術後が対象となります。脳血管疾患に関しては、ICUから多職種協働のもとで早期離床を図っています。ほかにも消化器外科手術前後の理学療法や、地域在住高齢者の医療・介護連携を経験できることも、当科の特徴のひとつです。



教育体制

新採用者1名につき指導者を1名配置する体制で、指導・助言を行っています。幅広い診療能力を持つ人材を育成することを目標に、急性期・地域包括とローテーションを行います。その後は専門性を高められるよう、各自の希望を聞きながら専従配置等を行います。勉強会や症例検討会を定期的で開催しており、コミュニケーションの機会を作っています。また、外部の学会や研修会参加費用の一部助成を行っており、自己研鑽に取り組みやすい環境です。

学術活動

臨床研究を行っています。また、各種学会（呼吸器系・循環器系・国立病院総合医学会等）で発表しています。また、がんのリハビリテーション研修修了者や呼吸療法認定士など、各種学会の認定資格取得者が在籍しており、スキルアップを支援しています。

他部門との連携

診療科ごとに、多職種（医師・看護師・薬剤師・栄養士・MSW）とのカンファレンスを毎週実施しています。その他、NST・RST・認知症ケア・緩和ケアラウンドなどに参加し、さまざまな視点を学びながら、協力して診療活動を行っています。

先輩からのメッセージ

病院からは関門海峡が見えるため景色もよく、毎日清々しい気持ちでリハビリテーション業務に取り組んでいます。勤務はシフト制で、計画的に休みを取ることができます。勉強会への参加や、優しい先輩方の指導もあり、相談しやすく成長できる職場です。ぜひ一緒に働いてみませんか？



山口宇部医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士5名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は「がん」「呼吸器」「重心」を診療の3本柱として掲げています。

がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療を提供しています。また重症心身障害児者の専門施設としてきめ細やかな医療と療育を提供しています。中国四国グループの中では特化した診療を行う数少ない施設のひとつです。

職場責任者からのメッセージ



当院は呼吸器・がん・重心に特化した施設ですので、それぞれの分野を深く勉強するにはとても適した環境だと思います。

関わりが長期にわたる患者様もいますので、リハビリテーションスタッフ間はもちろん、多職種間でもこまめにコミュニケーションを取りながら治療に携わっています。先輩後輩間でも気軽に相談しやすい環境ですよ。ぜひ中国四国グループ一緒に働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510山口県宇部市東岐波
685番地

電話番号(代表)：0836-58-2300
リハビリテーション科(職場長)まで
<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では、呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎・肺がんなど）、重症心身障害児（者）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。病期としては、急性期から維持期、さらには終末期・緩和ケア領域まで幅広く経験できることが特徴の1つとなります。

また最も当院で関わることが多い領域として、呼吸リハビリテーションが挙げられ、単に運動療法だけではなく、生活習慣の行動変容が重要です。そこで呼吸リハビリテーションの定義にもある「患者様とのパートナーシップのもと、自己管理能力向上」に向け、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、MSWなど様々なスタッフと共に、患者さん中心のチームアプローチを経験できることも大きな魅力となります。



教育体制

新人スタッフに対しては当科新人教育プログラムに沿ってプリセプターを中心とした指導を行います。

科内での勉強会や院内研修会などもあります。

3学会合同呼吸療法認定を有するスタッフも多く、取得を目指す際、相談しやすい環境です。

学術活動

【令和5年度理学療法部門実績】

学術発表6題（第77回国立病院総合医学会など）、論文7本（理学療法ジャーナルなど）

学術発表の内1演題は2年目のスタッフを主としフォローアップして実践。

企業や行政からの講演依頼を多数実施（呼吸器・フレイル関連）。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・MSWなど）とのカンファレンスが行われます。また必要に応じて退院前カンファレンスを、本人（ご家族）、在宅で関わる訪問看護師や理学療法士の方々と行っています。

先輩からのメッセージ

当院では呼吸器疾患や重症心身障害児（者）の患者さんを中心にリハビリテーションを行っています。悩むこともありますが、先輩方は優しく相談した際には丁寧にアドバイスをいただき、業務を行うことができます。

福利厚生も充実しており、休暇も取得しやすい環境だと思います。私自身も育児休業を取得し、業務・育児の両立も可能で毎日充実した日々を送ることができています。

ぜひ国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう！（入職8年目）





岩国医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は岩国市を中心に広島県・島根県の一部まで幅広くカバーし、半径40km・約40万人の医療圏において唯一の救命救急センター、2・3次救急医療および災害医療の要として機能しています。職員は地域の皆さまに信頼される病院であるとの自負心をもって働いています。高台にあるため、晴れた日は素晴らしい瀬戸内海の景色が見えるのも自慢です。

職場責任者からのメッセージ



地域における中核病院として幅広い疾患を診療することができます。伝統的に院内でのリハビリテーション科への信頼が厚く専門職としての力を発揮できます。離職者が少ないため安定した年齢構成で子育て中の職員も多く、男性職員の育児休暇取得などワークライフバランスにも早くから配慮を重ねてきました。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1-1

電話番号（代表）：0827-34-1000

リハビリテーション科（理学療法士長・作業療法士長）まで

<https://iwakuni.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では入院患者を対象とした急性期のリハビリテーションを主に実施しています。整形外科疾患（四肢や脊椎の骨折、人工関節術後など）・脳血管疾患（脳外科術後、脳卒中など）をはじめ、呼吸器疾患（急性呼吸不全、慢性呼吸不全など）、心疾患（心外術後、心筋梗塞、心不全など）、がん（肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がんなど）など幅広い理学療法を展開しています。また、疾患別チームに分かれ、休日も含めて理学療法を提供しています。



教育体制

当科の新人教育プログラムに沿って実施し、指導係を配置して2年間で各チームをローテーションするようにしています。新人に応じた指導を行うように配慮し、相談しやすい環境を心がけています。また、研究においても、具体的な研究計画や統計解析など学会発表や論文発表ができるようにサポートします。勉強会は、原則月1回の頻度で患者急変時シミュレーション研修、感染対策などを行っています。

学術活動

学会発表：令和5年度 7件

他部門との連携

各科のカンファレンスやラウンドに積極的に参加しています。患者さんの基本動作能力や運動負荷については理学療法士の意見を元に治療方針や転帰が決定されることが定着しているため、正確な情報伝達を心がけています。多職種と連携しながら、PTとしての専門性を活かして働ける職場です。

先輩からのメッセージ

当院では脳血管疾患、循環器疾患、運動器疾患、呼吸器疾患の4チームに分かれ、半年ごとに移動するため幅広い疾患を経験することができます。急性期リハビリテーションに共通したリスク管理を学びながら、それぞれの疾患に応じたリハビリテーションを提供できるように勉強しています。初めは力不足や不安を感じることもありましたが、優しい先輩方が手厚く相談にのり指導して下さるため、とても充実した日々を過ごせています。ぜひ国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう。





柳井医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士7名

作業療法士5名

言語聴覚士3名

当院の特徴

神経難病患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発硬化症等）、重度心身障害児（者）の専門的医療施設で、山口県全域、広島県西部地区の中核病院として障害者医療を行っています。一般外科はもとより、肛門疾患、直腸、大腸癌の専門的外科治療及びストーマリハビリテーションの専門医療の確立に努めています。入院での人工透析も行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院は国立病院機構の中でも数少ない人工透析患者に対する積極的な医療およびリハビリテーションを実施しております。また、病院の眼下には瀬戸内海の多島美の絶景を望むことが出来、素晴らしい環境の職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95

電話番号（代表）：0820-27-0211

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://yanai.hosp.go.jp/>

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院ではパーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症などの神経難病や重度心身障害児(者)、外科手術後、人工透析等の患者さんのリハビリテーションを主に支援しています。

近年では脳卒中後遺症や整形外科等の患者のリハビリテーションにも積極的に介入しています。理学療法では、神経難病の患者さんや重度心身障害児(者)に対して排痰補助装置を用い積極的に関わっています。



教育体制

臨床では病棟担当制（チーム制）を導入し、経験のある職員が新人職員へマンツーマンで指導・助言を行っています。毎朝チームで情報共有を行うなど、チームで支える取り組みも行っています。また新人教育プログラムを用いて計画的に業務全般を習得できるように進めています。

学術活動

学会発表：令和5年度 1件

他部門との連携

神経内科リハビリテーションカンファレンスを毎月開催し、主治医・病棟看護師長、メディカルソーシャルワーカー等と情報共有を行っています。

各病棟においても、リハビリテーションスタッフと病棟看護師等と入院患者のカンファレンスを行い、濃密な連携を図っております。

先輩からのメッセージ

当院の特色でもある神経難病・廃用症候群・整形疾患・重度心身障害児(者)の患者さんのリハビリテーションに携わっています。緊張感のある臨床現場の中でも、優しい先輩方に囲まれ貴重な経験をしてきました。

病院ごとの特色がある国立病院機構では、専門的な治療を受けられている患者さんと一緒に、その後の生活を考えながら理学療法を行うことができます。これからの社会を支える理学療法士を目指している方を歓迎します。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 5名

作業療法士 2名

言語聴覚士 2名

当院の特徴

徳島県東部を診療圏として、政策医療である結核・重心病棟の他、一般病棟（地域包括ケア病棟含む）を有し「やさしい笑顔とよりそう医療」を病院の理念として、地域に貢献する医療を実践しています。

職場責任者からのメッセージ



当院リハビリテーション科では、病院の理念の「やさしい笑顔とよりそう医療」に基づいて、患者さん個々に合わせたリハビリテーションを提供しています。他部門や他職種ともコミュニケーションを取りやすく、患者さんの気持ちや目標に寄り添うため、連携しながら取り組んでいます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒779-0105 徳島県板野郡板野町大寺大向北
1-1

電話番号（代表）：088-672-1171

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://higashitokushima.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では、呼吸器疾患（COPD、各種肺炎、肺癌、肺結核、肺MAC症など）、運動器疾患、代謝性疾患（主に糖尿病）、外科手術（呼吸器、消化器など）の周術期や重症心身障害児者を主な対象としたリハビリテーションを中心に実施しています。そのため、急性期から維持期まで幅広い分野に介入しています。

特に内部障害リハビリテーションの患者さんが多いことから、当部門では、3学会合同呼吸療法認定士の取得者が在籍し、包括的呼吸リハビリテーションにも取り組んでいます。また、糖尿病患者さんの教育入院にも対応しております。

勤務体制は、交代制の土曜日リハビリテーションを行っており、より継続した理学療法の提供が可能です。



教育体制

月1回の頻度で科内勉強会を開催しており、院内研修会への参加も積極的に行っています。

3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士やトレーナー資格を取得したスタッフが在籍し、登録理学療法士への支援も充実しています。

新人に対しては、プリセプターを中心とした教育プログラムに沿った指導を行っています。

学術活動

国立病院総合医学会や各専門領域の学会で研究発表を実施しています。

令和5年度 第77回国立病院総合医学会

「高齢重複障害を有する左大腿骨顆部骨折の症例検討

～在宅復帰までの過程とその後の生活状況～

令和5年度 日本糖尿病学会中国四国部会

「血糖コントロールに寄与する下肢筋機能の検討

～糖尿病教育入院患者にたいする科学的根拠に基づいた運動指導の実践～

他部門との連携

各病棟にてリハビリテーションカンファレンスを週1回の頻度で実施しており、多職種との連携もスムーズに行える環境が整っています。

退院前カンファレンスや退院前訪問等も積極的に実施し、在宅復帰への移行を円滑に行えるよう多職種間で連携をとっています。

先輩からのメッセージ

当院では、運動器疾患や呼吸器疾患、重症心身障がい児者など幅広い疾患を経験することができます。多種多様な疾患に対応することは、当初は不安も多くありましたが、先輩方より熱心に優しくご指導していただき、充実した日々を過ごせています。また、患者さま一人ひとりに対して時間を掛けられるので、ゆっくり仕事に慣れることができると思います。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 9名

作業療法士 5名

言語聴覚士 3名

当院の特徴

政策医療である神経筋疾患に対する医療を主に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師と看護師、コメディカル部門との連携も充実しており、質の高い医療サービスが実現できるような体制です。古くからスポーツ医療も盛んで県内の中高生が多く来院し、リハビリテーションを実施しています。また、ロボットリハビリテーションにも取り組んでおり、10年近い実績があります。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科のモットーは「常に患者さんの病態を把握できるように日頃から資質の向上に努める。常に患者さんに寄り添ったリハビリテーションになるよう心掛ける。」としています。当院では慢性進行性に病態が変化する神経筋疾患の患者さんが多く、なかには精神的に疲弊している患者さんもおられます。高度で質の高いリハビリテーションを提供するにあたって、自らのスキルを向上させることはもちろんのこと、誠心誠意、患者さんに寄り添って医療にあたるのが重要と考えています。「治療してあげているのではなく、させていただいている」。治療を通して患者さんから学ぶことも多く、注意深く観察することで成長していくことができると思います。お互いに志を高く持って働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒756-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地
 徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地
 電話番号（代表）：0883-24-2161
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tokushima.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、政策医療であるパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患とスポーツ整形外科などを対象に医療サービスの提供を行っています。特に、パーキンソン病に特化した短期集中リハビリテーション入院を14年間にわたって継続しています。また、先進医療としてロボットスーツHAL®を用いたロボットリハビリテーションも積極的に取り入れています。



教育体制

リハビリテーション部門全体で1回/週の勉強会を実施しています。国立病院機構主催の研修会はもちろん、院内や各種学会・研修会への参加・発表にも積極的です。また、認定理学療法士や各種資格等の取得にむけても個々に自己研鑽しています。

学術活動

学会発表：令和5年度 5題

その他：吉野川市保健所主催のパーキンソン病に特化した講演会や、地域に向けた当院主催の健康増進活動に関する講演会など地域に密着した活動も行っています。また、国立病院機構や理学療法士会の研修会や学術集会への参加も積極的に行えるような環境です。

新型コロナウイルスによる感染症が5類になって以降は、学術活動を活発に行えるように取り組んでおります。

他部門との連携

定期的に多職種（医師、看護師、地域連携室、薬剤師など）とのリハビリテーションカンファレンスが行われます。

退院前カンファレンスや退院前訪問などを他職種と行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

私はとくしま医療センター西病院に勤務を始めて2年目となります。神経・筋疾患は難病であり、リハビリの難しさを日々感じておりますが、上司や先輩方のアドバイスをいただきながら患者様に合わせたリハビリを提供させていただいています。国立病院機構で神経・筋疾患の医療の発展に貢献していきましょう。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

地域を支える病院として、①香川県の難病医療支援ネットワークにおける神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療、②結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療、③高齢者や障害者にも優しい一般医療の3つの機能を柱として診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心とした維持期リハビリテーションや、急性期病院から転院してこられた患者さんに対して、患者さんの目線で自宅退院を想定したリハビリテーションを展開しています。スタッフのチームワークは抜群に良く、コミュニケーションを大事にしながら患者さんに寄り添うリハビリテーションを提供しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒761-0193 香川県高松市新田町乙8

電話番号（代表）：087-841-2146

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://takamatsu.hosp.go.jp/>

理学療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では、神経難病（パーキンソン病、ALS、多系統萎縮症など）・呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎、結核など）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。

脳卒中認定理学療法士（1名）、パーキンソン病の運動療法を専門的に行うLSVT®BIG認定療法士（3名）などの資格取得者が在籍し、学術活動にも力を入れています。

ALS患者さんに対する呼吸リハビリテーションや、令和3年度より開始したパーキンソン病患者の短期集中リハビリテーション（ブラッシュアップ入院）を積極的に実施しています。



教育体制

リハビリテーション科内で、新人教育プログラムに沿った教育や症例検討会、勉強会を実施しています。また、当院のリハビリテーション科の方針に有益な研修であれば、研修費の補助も可能です。また、日本理学療法士協会の生涯学習制度の変更に合わせて、科内で実施している症例検討会を、香川県理学療法士会に申請し、承認を得ることで登録理学療法士の申請や更新のポイントに使えるよう取り組んでいます。

学術活動

学会発表（令和5年度）

「神経筋疾患」医療政策ネットワーク協議会研究発表：1名

国立病院総合医学会：1名

高松医療センターは香川県の難病診療分野別拠点病院（神経筋疾患分野）です。神経筋疾患患者さんのリハビリテーションについての情報発信を積極的に行っています。

他部門との連携

毎月、病棟別にカンファレンスを行っています。特にブラッシュアップ入院では毎週金曜日に病棟でカンファレンスを行い、リハビリテーションの進捗状況を報告します。退院時には担当者会議を行い、患者さんのご家族やケアマネージャーさんと情報を共有します。

先輩からのメッセージ

当院では神経難病に特化したリハビリテーションを学ぶことができます。特にパーキンソン病の専門プログラムであるLSVT®や、ALSや筋ジストロフィーに対する呼吸リハビリテーションであるLVRなどを積極的に実施しています。深く学んだことを患者さんに還元できる体制が整っていると感じています。





対象病期

急性期	回復期	慢性期	維持期
-----	-----	-----	-----



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士15名 作業療法士6名 言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は成育医療、成人医療、重症心障害児者に医療を提供出来る複合型の病院あることが特徴です。リハビリテーション科では小児から成人まで、そして急性期から慢性期まで、多種多様なリハビリテーションを提供しています。当院の「ホスピタルアート」も必見です。まずは是非HPをご覧ください。

職場責任者からのメッセージ



「成育」「成人」「重症心身障害児者」へのリハビリテーション。そして「急性期」「維持期」と、多種、多様なリハビリテーションを経験出来ます。また、スタッフが多いため、色々なアドバイス、経験談や知識を得られる職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1
 電話番号（代表）：0877-62-1000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://shikoku-mc.hosp.jp/>

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門は16名。成育と成人の部門に分かれ、日々の業務に当たっています。成育部門では新生児の発達促進をNICU・GCUから外来まで対応。また重症心身障害児者病棟のリハビリテーションや座位保持装置、車椅子、装具の作成に関わっています。成人部門では救命病棟、ICUから対応し、運動器・脳血管・循環器疾患の急性期リハビリテーション。また在宅への支援の一環でもある地域包括ケア病棟でのリハビリテーションも行っております。土日祝日のリハビリテーションを提供しており、ローテーションで対応し、平日の振替休日に対応しております



教育体制

リハビリ科内では新採用者に対してプリセプター、メンターを配置しマンツーマンでの指導と同時に、プリセプター以外にも各種チームリーダーからの関わりが持てる体制となっています。また、教育システムの見直しを随時行なうよう努めています。

学術活動

学会発表：令和5年度 国立病院総合医学会 2件、日本運動器疼痛学会 3件
地域連携室を通じた「健康(出前)講座」や県民・市民向け講座、糖尿病教室など、地元地域への健康講座も行っています。

他部門との連携

各種委員会への参加、他部門からの研修依頼への対応
定期的な多職種とのカンファレンスの実施
小児外来では地元教育、療育部門のスタッフと連携を取れるよう、リハビリの見学やカンファレンスの実施。

先輩からのメッセージ

当院では急性期から生活期、またこどもからおとなまでを対象に幅広い疾患に対するリハビリテーション業務を実施しています。理学療法士として1年目の年では先輩方より脳血管・循環器・運動器の3領域を経験させていただきました。それぞれの領域のプリセプターのもと、各疾患に対する臨床能力や知識などを詳しく学ぶことができます。

また、職場内の雰囲気も良く質問や相談しやすい環境も整っています。それだけでなく、院内の勉強会も充実しており、入職後のスキルアップをサポートする体制や研究活動への支援体制も整っており、多様な経験を積むことができます。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

当園外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 2名

作業療法士 1名

当園の特徴

当園はハンセン病の基本治療を既に終了した方に、ハンセン病の後遺症治療と一般疾患治療を提供しています。後遺症治療は皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・外科・整形外科等の診療科で治療が行われ、一般治療では内科・心療内科・泌尿器科等で、悪性腫瘍・脳血管障害・心臓病・高血圧症・生活習慣病・認知症等入所者の高齢化に伴う医療内容が大きな比重を占めています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは、当園の特徴や部門紹介でもあるように生活期の入所者の方を対象にリハビリテーションを提供しています。スタッフ数は少数のため忌憚なく意見交換ができ主体的に業務に取り組めると思います。また、休暇取得・福利厚生も充実しているのでワークライフバランスを保ちながら継続して仕事に取り組むことが可能です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒764-0198 香川県高松市庵治町6034-1

電話番号（代表）：087-871-3131

リハビリテーション科（職場長）まで

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/osima/index.html

アクセス：当施設は大島という島内にあり、詳細は上記の施設ホームページで確認していただければ幸いです。

理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当園の理念

「私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。」

理学療法部門では身体機能やADLの改善および維持を目的とし機能訓練を中心に物理療法を併用しています。

入所者皆さんの平均年齢は約86.7歳です（令和6年4月）。リハビリテーションの対象者はハンセン病後遺症と高齢疾患の重複障害者であり、多職種間の連携が必要です。急性期の施設と違い、終末期まで関わられるのが特徴です。

リハビリテーション室



教育体制

各種委員会チーム会主催の講演、部署内での勉強会、レクリエーションへの参加などを行っております。また園内の研修については、可能な限り参加できる環境を整えています。

学術活動

雑誌投稿：令和5年度1件 医学書院「理学療法ジャーナル」

その他：園内における健康教室「転倒予防」、勉強会「ボディメカニクス」の講義を担当

他部門との連携

必要時に多職種（医師・看護師・介護員・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

先輩からのメッセージ

入所者皆様の高齢化もすすんでいますので、リハビリテーション職だけでなく職員一丸となって連携を図り、入所者皆様の個々の思いに沿いながら今後も安心して生活ができるように、リハビリテーションに取り組んでいます。



四国がんセンター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士1名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から緩和期まで医療体制が整備されています。

職場責任者からのメッセージ



当院は主に「がんのリハビリテーション」を実施しています。周期・進行期から緩和期までがん医療におけるリハビリテーションの役割を担っています。療法士はもちろん、医師・看護師も「がんのリハビリテーション研修」を受講できる体制が整備されています。また、当院は研修を主催する立場にあり、研修会では講師やファシリテーターを努めています。診療業務に加えて研究活動にも力を入れており、文献抄読会や関連学会での発表、論文執筆などを積極的に行っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0280 愛媛県松山市南梅本甲160

電話番号（代表）：089-999-1111

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/>


理学療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では周術期リハビリテーション（リハ）、進行がんに対する維持的リハ、リンパ浮腫に対する集中排液、緩和期のリハなど、がんにおける医療とリハを広く深く学ぶことができます。その他、学術活動を推進しており、文献抄読や学会発表・論文執筆などにも力を入れています。医師と療法士とのコミュニケーションがとりやすく、働きやすい職場を目指しています。



教育体制

当科の新人教育プログラムに基づき、新採用者に対して指導係とアドバイザーを配置し、サポートしています。また週1回、リハ科医師と療法士による文献抄読会を行っており、がんに関する和英文献をもとに最新の知見を共有する勉強会を実施しています。

学術活動

学会発表：令和5年度 4件

講演依頼：1件

研修会主催：がんのリハビリテーション研究会を開催

他部門との連携

毎朝、リハ科医師と療法士・看護師による多職種カンファレンスを開催して治療方針やリスクの共有を行っています。ハイリスク患者さんが安心してリハを実施できる体制作りを目指しています。

各種委員会、各病棟カンファレンス・回診に携わっています。

リハ科内は、スタッフが気軽に相談ができる雰囲気作りを目指しています。

先輩からのメッセージ

当院では、急性期から慢性期まで幅広いがん患者さんにリハビリテーションを提供しています。スタッフ全員ががんのリハビリテーション研修を受けており、定期的に文献抄読など情報共有や意見交換する場も設けています。PT・OT・STは8名と少人数体制ではありますが、その分距離も近く雰囲気の良い職場です。そのためがんリハに初めて携わる方や不安を抱えている方でも安心して働くことができます。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士8名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。またポストNICU病床を設け、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、高次の循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリテーションや生活習慣病対策にも力を入れています。平成28年4月からは松山医療圏の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

職場責任者からのメッセージ

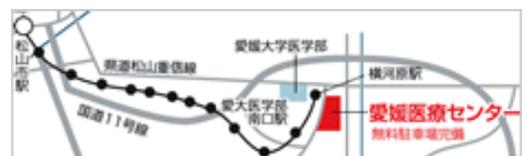


当科のリハビリテーション対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、療法士には幅広い知識と技術が必要とされます。そのため技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会への参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。また職場内では、より臨床に還元できるような勉強会等を定期的を実施しています。

当科では新採用職員に限らず、気軽な雰囲気でも何でも相談でき働きやすい職場作りを目指しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0203 愛媛県東温市横河原366
 電話番号（代表）：089-964-2411
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://ehime.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は政策医療と地域医療を2本柱としています。神経難病、重症心身障害、結核の専門医療施設の役割と、ポストNICU病床を設け小児医療に関わっています。

また松山市医療圏内の二次救急輪番病院として地域医療の役割も担っております。

リハビリテーション対象疾患は神経内科、整形外科、循環器内科、呼吸器内科、身体障害児者と大変幅広く、理学療法士として色々な経験を積むことが出来る環境です。



教育体制

卒後2年目までを対象とした新人教育プログラムでは、専門性の高いスキルを習得するためにPT・OT・STで構成される病棟担当制を導入し、リハビリテーション科全員で新人教育と教育者の育成に取り組んでいます。リハビリテーション科内の勉強会を月に1度開催しており、症例検討や接遇、医療安全などの研修を定期的に行っています。また院外の研修会、学会発表、資格取得を支援する環境も整っています。

学術活動

学会発表 令和5年度：3件

各診療科や多職種と共同研究を行い、各種学会にて発表を行っています。また院内で開催される研究会にも積極的に参加しています。当院では学術活動を行う上で臨床研究部の支援を受けられます。

他部門との連携

リハビリテーション科のスタッフは、チーム医療の一員として活動しています。

呼吸サポートチーム

糖尿病リハビリテーションチーム

心臓リハビリテーションチーム など

先輩からのメッセージ

当院のリハビリテーション科は幅広い疾患や急性期・慢性期の臨床を経験することができます。また科内では定期的に勉強会を実施し、臨床における知識の向上や治療内容の確認ができます。また、ベテランから適宜アドバイスなどがあり、新人から安心して業務に取り組めます。学術活動においても科内のみならず、他職種からのサポートも受けられ学会発表や論文投稿に取り組むなど、自己研鑽に励むことができる環境が整っています。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院では、主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身の患者さんに対して理学療法を行っております。呼吸器に関しては、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師、コメディカルと協力して包括的に診療することができるようになっております。整形疾患では、脊椎疾患、人工関節、骨接合術後の患者さんが多く早期から関わっています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」という理念のもと、職員一人一人がリハビリテーション専門職として働いています。高知県では唯一の国立病院機構施設で、結核病棟や療養病棟、新型コロナウイルス感染症病棟といった地域のセーフティネットの役割を担っています。また整形外科の手術件数が多く、急性期運動器リハビリテーションの専門性を高めることができます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：

〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1-2-25
 電話番号（代表）：088-844-3111
 リハビリテーション科（渡利）まで
<https://kochi.hosp.go.jp/>



理学療法部門

勤務形態

土日休み

土曜出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

理学療法部門では整形（腰部脊柱管狭窄症・人工関節置換術後など）・呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎・肺がん術後など）・外科術後（イレウス、消化器官切除など）・重症心身障害児（者）を対象としたリハビリを中心に取り組んでいます。3学会合同呼吸療法認定士やがんリハビリテーション研修修了者、心臓リハビリテーション指導士などの資格取得者が複数名在籍し、また取得に必要なサポートも充実しています。急性期から維持期まで幅広く介入していることも当院理学療法部門の特徴となります。

土曜日のリハビリにより、術後早期からの継続した理学療法の提供を行っています。



教育体制

新人育成に関しては当科新人教育プログラムに沿ってプリセプターを中心とした指導を行っています。

院内の研修会や院外での研修などの参加を積極的に勧めており、3学会合同呼吸療法認定士や心臓リハビリテーション指導士資格を有するスタッフも多く、取得をサポートする勤務時間内の勉強会も充実しています。

学術活動

令和5年度学会発表 0件

多岐にわたって研究発表を行っており、各団体・研究会などからの講師依頼においてスタッフの派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

また在宅に関わる職種の方と退院前カンファレンスなどを行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院では急性期だけでなく慢性期や重度心身障害児（者）など幅広い患者さんを対象に、医師や看護師など多職種と連携を取りながらチーム医療を提供しています。

昨年度、高知病院に転勤してきましたが病院によって色々な特色があり理学療法士としての幅が広がり日々勉強になっています。

資格取得に向けた研修や勉強会などの参加も推奨され、スキルアップするための環境も整っています。

ぜひ国立病院機構中国四国グループで一緒に働いてみませんか。

